WAP371でのIPv4およびIPv6の設定

目的

WAP371のデフォルト設定はDHCPですが、静的IPアドレスを使用することもできます。この場合、DHCPクライアントを無効にして、IPアドレスやその他のネットワーク情報を手動で割り当てる必要があります。このような変更を行うために、IPv4とIPv6の設定を構成できます。

このドキュメントの目的は、WAP371でIPv4とIPv6の設定を行う方法を説明することです。この記事のバージョンをイメージと共に使用する場合は、ここをクリックしてください。

該当するデバイス

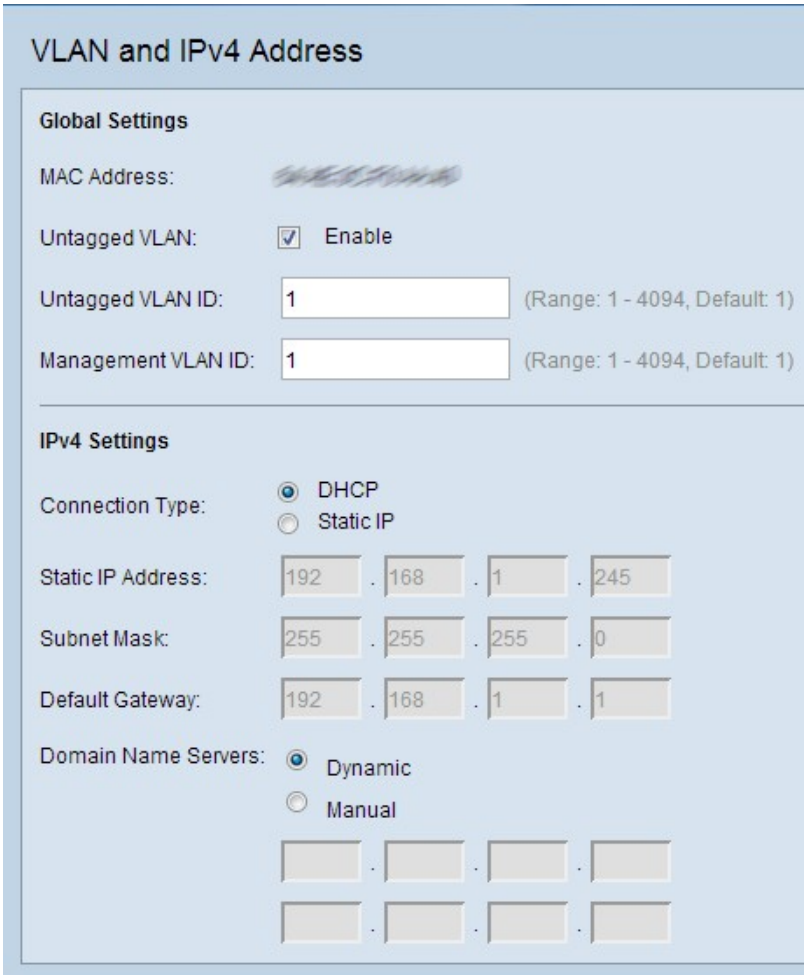
WAP371

[Software Version]

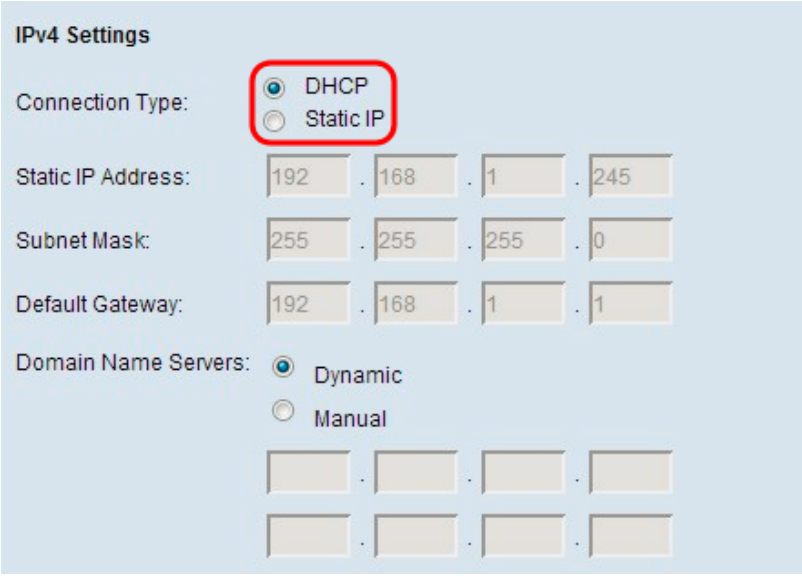
1.2.0.2

Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)によるIPv4の自動設定

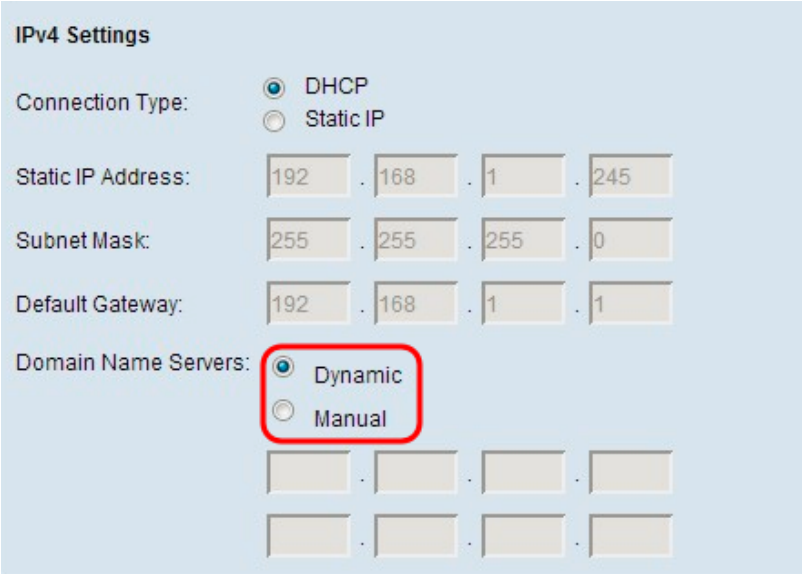
ステップ1:Web設定ユーティリティにログインし、[LAN] > [VLAN and IPv4 Address]を選択します。[*VLAN and IPv4 Address]ページが開きます。*



ステップ2:[IPv4 Settings]の下で、*[Connection Type]*フィールドの[**DHCP**]オプションボタンをクリックします。これにより、WAPはDHCPサーバから[Local IP Address]、[Subnet Mask]、および[Default Gateway]フィールドの値を自動的に取得できます。このオプションはデフォルトですでに選択されています。



ステップ3:[ドメインネームサーバ(*Domain Name Servers*)]フィールドで目的のラジオボタンをクリックします。

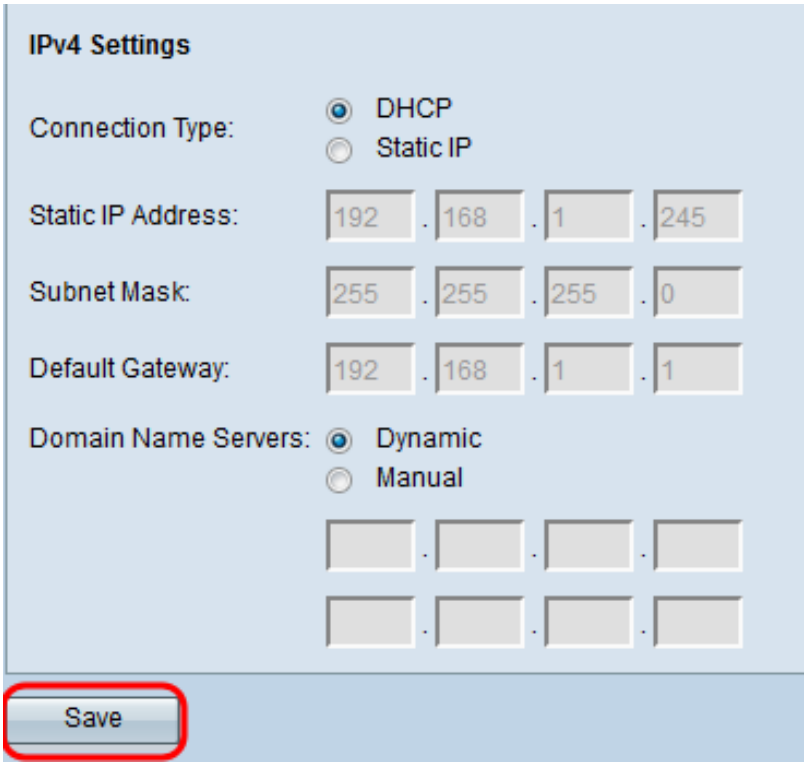


使用可能なオプションは次のとおりです。

ダイナミック：LAN内のDHCPサーバからプライマリおよびセカンダリのDNSサーバアドレスを取得します。

[手動(Manual)]:1つ以上のDNSサーバアドレスを手動で設定します。次のテキストボックスに最大2つのIPアドレスを入力します。2番目のアドレスはオプションです。

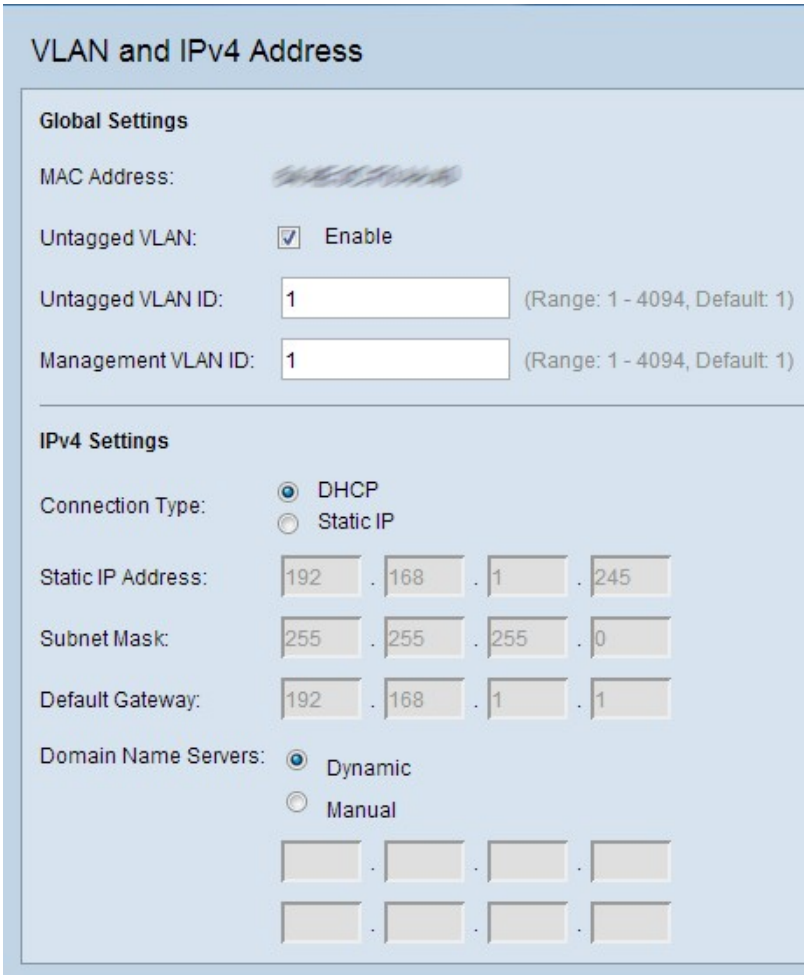
ステップ4:[Save]をクリックして設定を保存します。



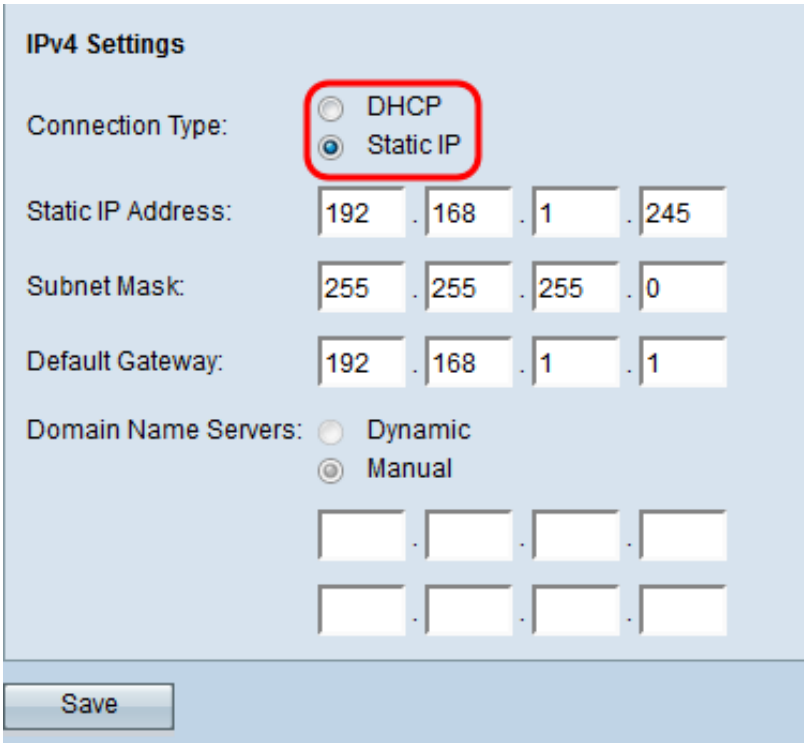
スタティックIPv4設定

注：IPv4設定を構成するには、接続タイプを1つだけ選択してください。上記のDHCP設定を選択した場合は、次に説明する手動設定は必要ありません。

ステップ1:Web設定ユーティリティにログインし、[LAN] > [VLAN and IPv4 Address]を選択します。[*VLAN and IPv4 Address*]ページが開きます。

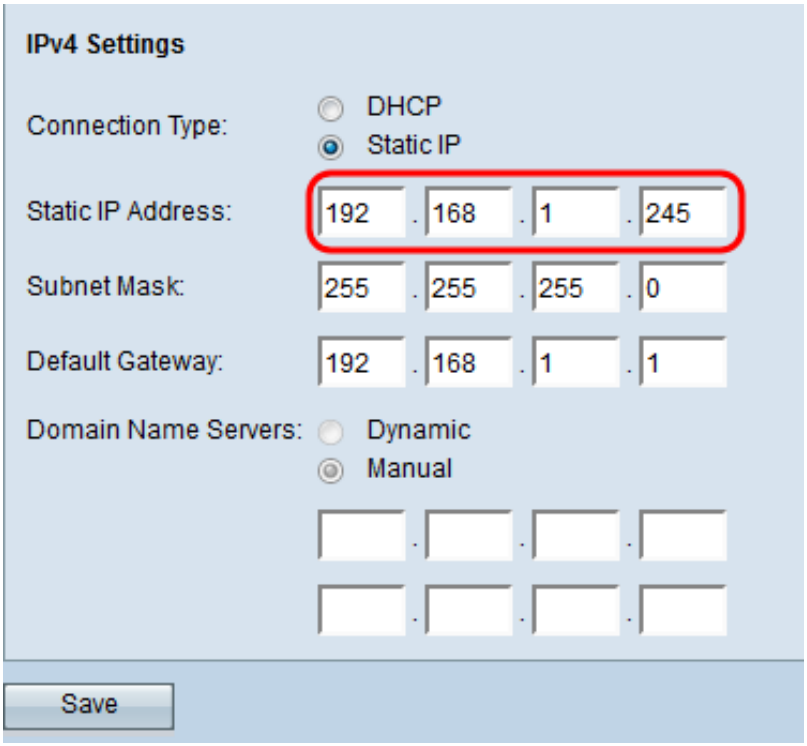


ステップ2:[*IPv4 Settings*]の[Connection Type]フィールドで[Static IP]をクリックします。そのためには、アクセスポイントにIPアドレスを手動で割り当てる必要があります。

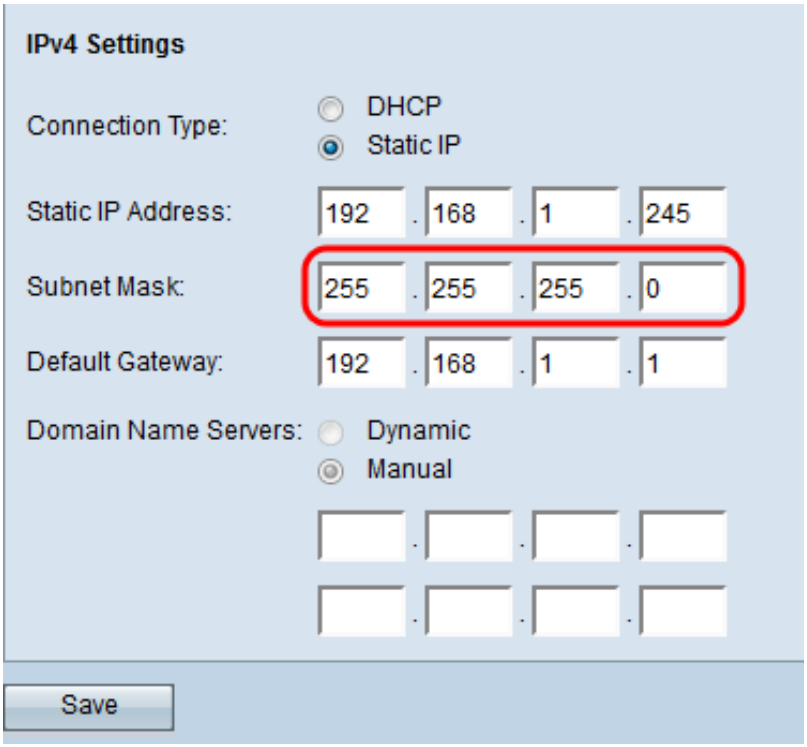


ステップ3:[Static IP Address]フィールドにアクセスポイントのIPアドレスを入力します。この

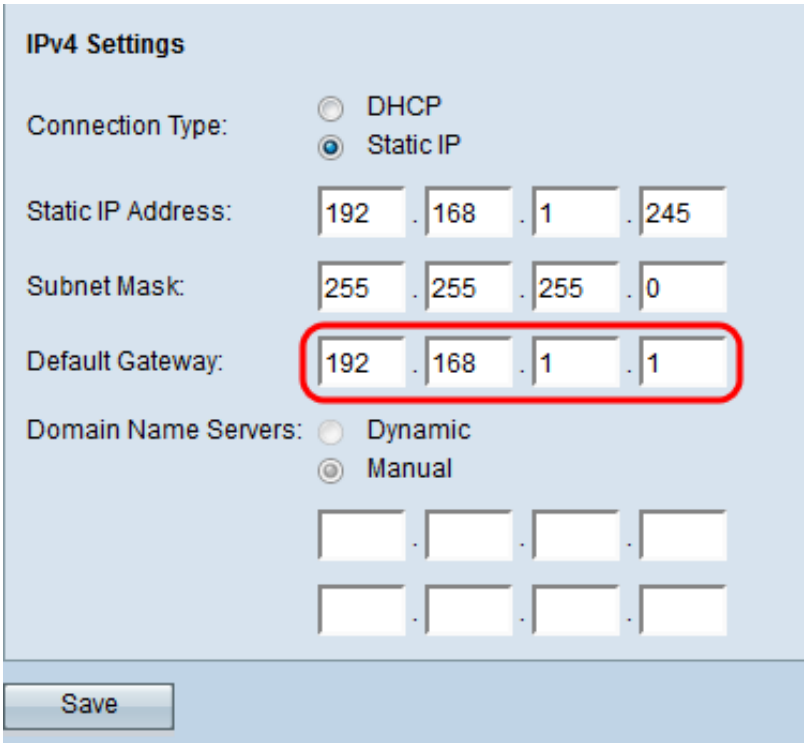
IPアドレスは、このネットワークで一意である必要があります。



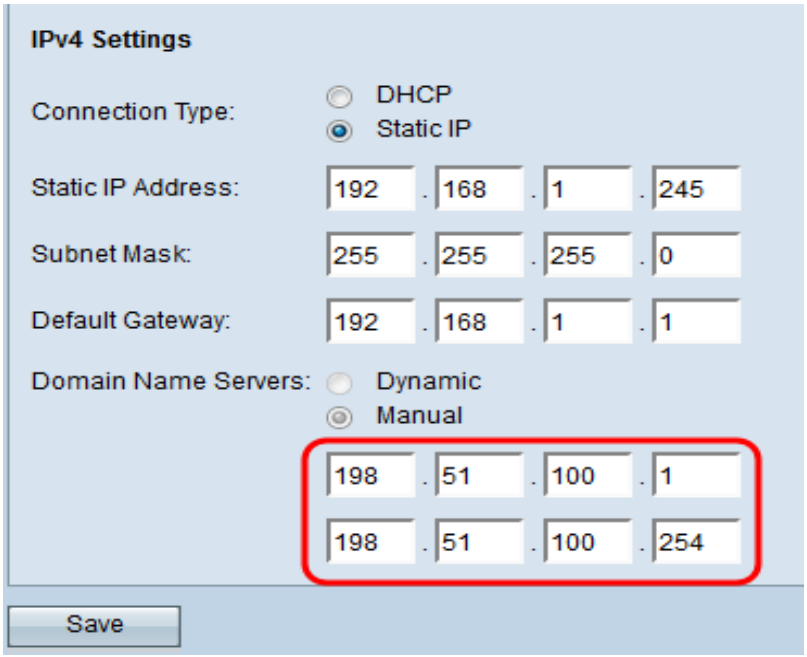
ステップ4:[Subnet Mask]フィールドにネットワークのサブネットマスクを入力します。デフォルトマスクは255.255.255.0です。



ステップ5:[デフォルトゲートウェイ]フィールドにデフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力します。デフォルトゲートウェイは、ネットワークをインターネットなどの外部ネットワークに接続するルータです。パケットの宛先IPアドレスが不明な場合は、デフォルトゲートウェイに送信されます。

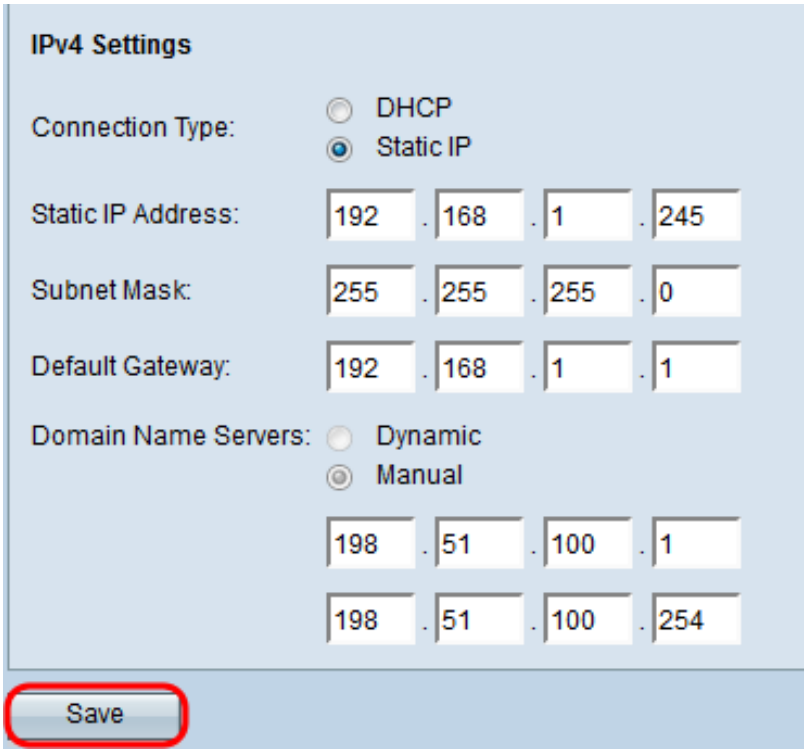


ステップ6:[ドメインネームサーバ(*Domain Name Servers*)]フィールドに、ドメインネームシステム(DNS)サーバのIPアドレスを手動で入力します。通常、インターネットサービスプロバイダー(ISP)はこのアドレスを提供します。2番目のDNSサーバのIPアドレスはオプションです。



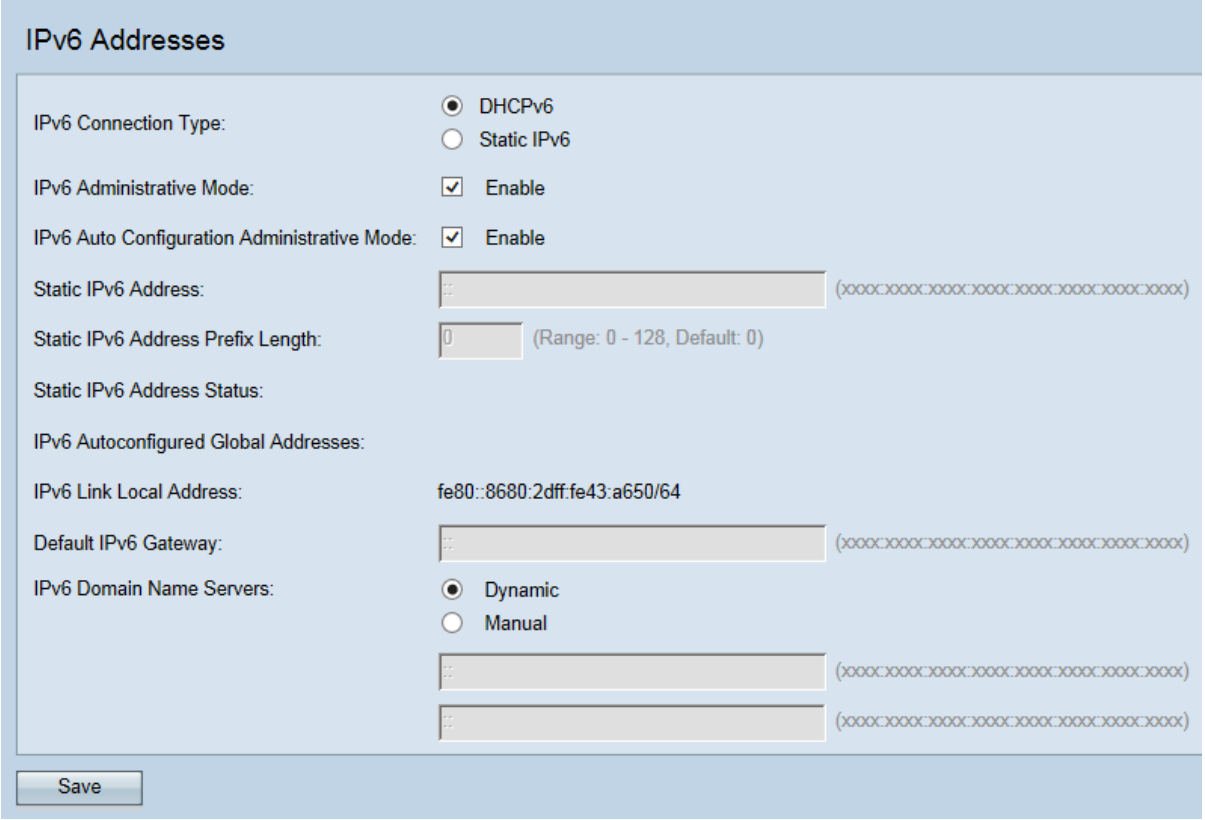
注：ステップ2で**スタティックIP**接続タイプを選択すると、ドメインネームサーバが自動的に[手動]に設定されます。

ステップ7:[Save]をクリックして設定を保存します。

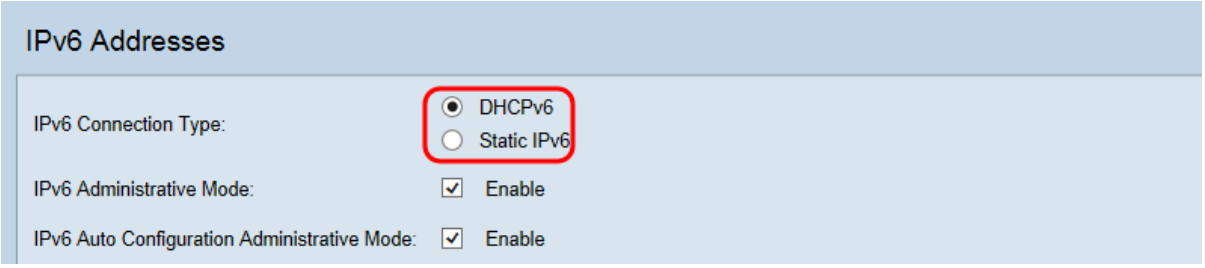


Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)によるIPv6の自動設定

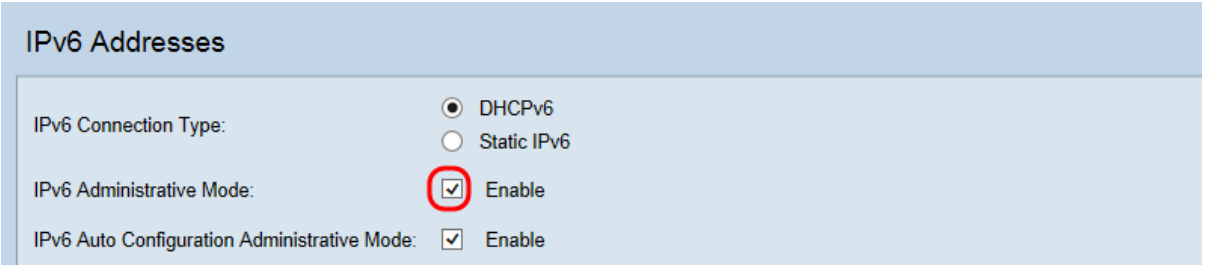
ステップ1:Web構成ユーティリティにログインし、[LAN] > [IPv6 Address]を選択します。[IPv6アドレス]ページが開きます。



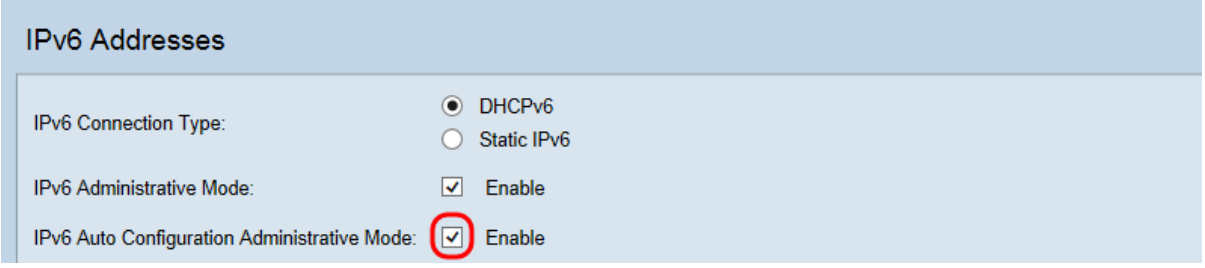
ステップ2:[Connection Type]フィールドの[DHCP]オプションボタンをクリックします。これにより、WAPはDHCPサーバから[Local IP Address]、[Subnet Mask]、および[Default Gateway]フィールドの値を自動的に取得できます。



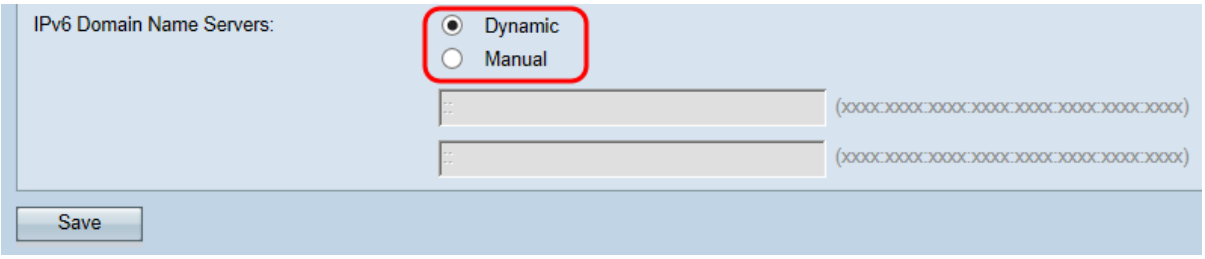
ステップ3:[IPv6管理モード(*IPv6 Administrative Mode)]チェックボックスをオンにして、IPv6管理アクセスを有効または無効にします。これにより、デバイスの管理インターフェイスにIPv6アドレスでアクセスできます。



ステップ4:[IPv6 Auto Configuration Administrative Mode] チェックボックスをオンにして、デバイスのIPv6自動アドレス設定を有効または無効にします。これにより、デバイスはDHCPサーバまたは静的に割り当てられたアドレスなしで自動的にIPv6アドレスを生成できます。



ステップ5:[IPv6 Domain Name Servers]フィールドで目的のラジオボタンをクリックします。

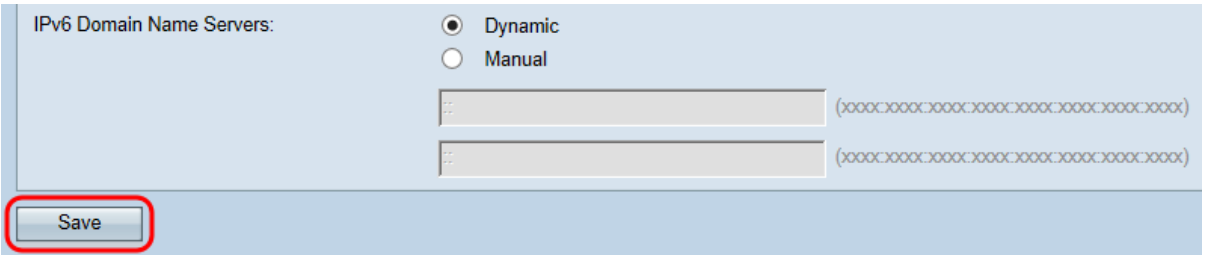


使用可能なオプションは次のとおりです。

ダイナミック：DNSネームサーバはDHCPv6を介して動的に学習されます。

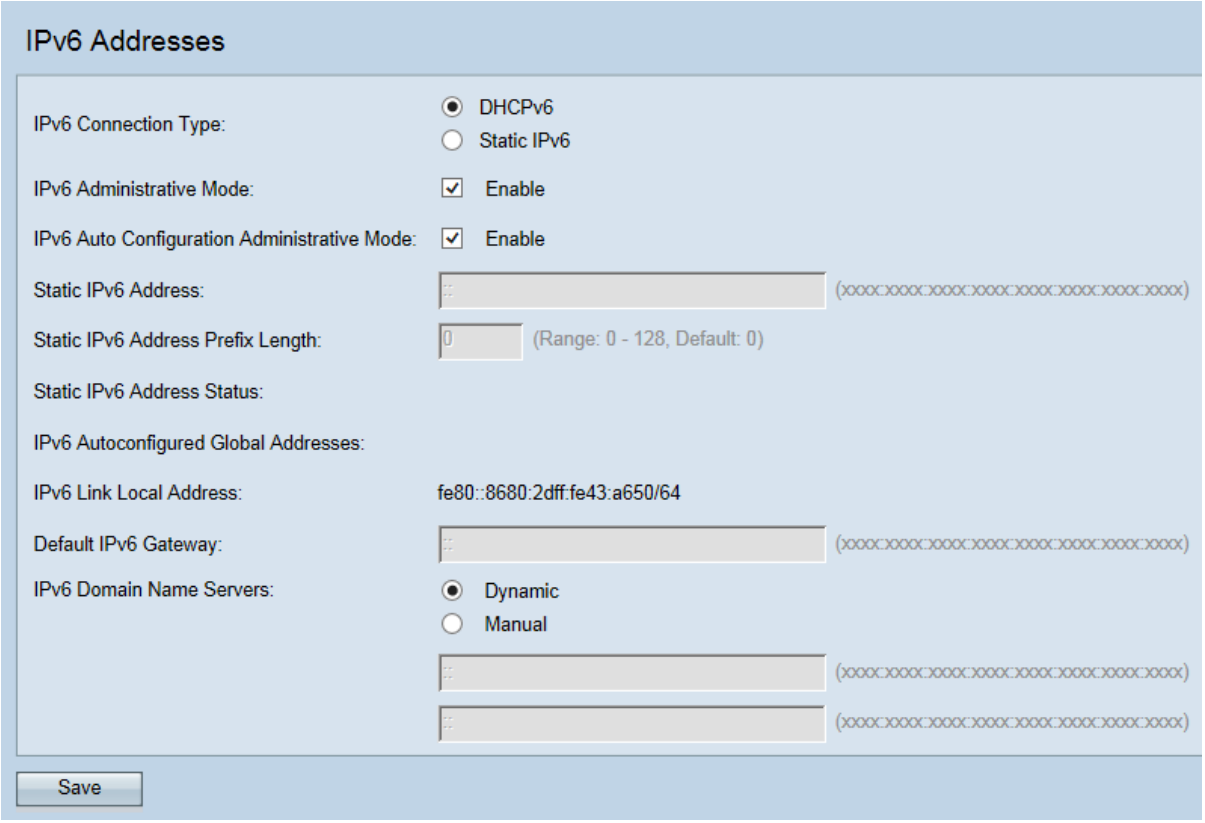
[手動(Manual)]：表示されるフィールドには、最大2つのIPv6 DNSネームサーバを指定します。

ステップ6:[**Save**]をクリックして設定を保存します。

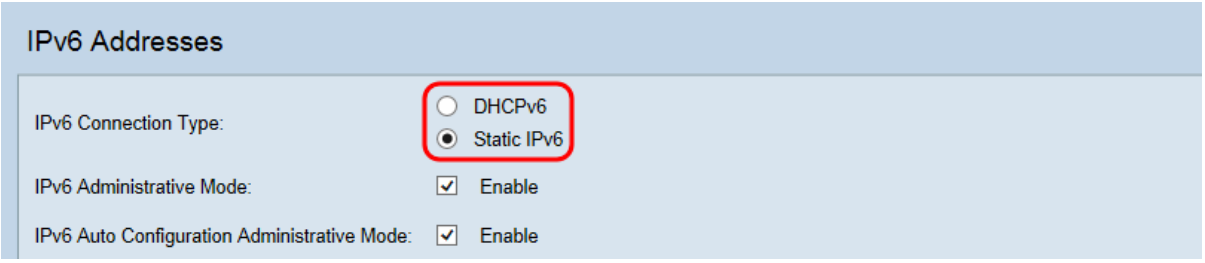


スタティックIPv6設定

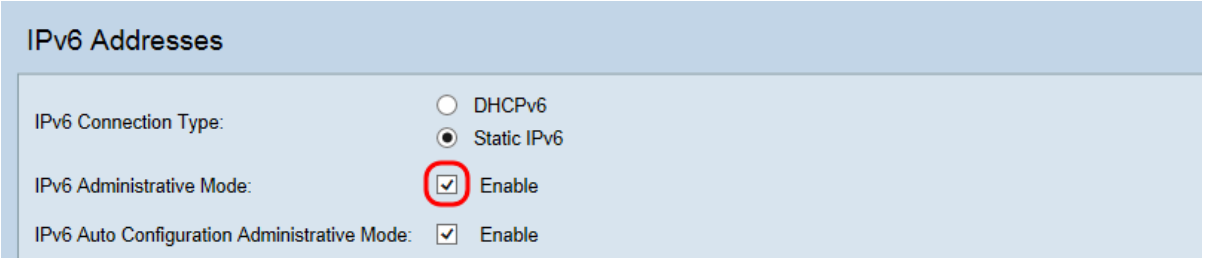
ステップ1:Web構成ユーティリティにログインし、[LAN] > [IPv6 Address]を選択します。[*IPv6 Address*]ページが開きます。



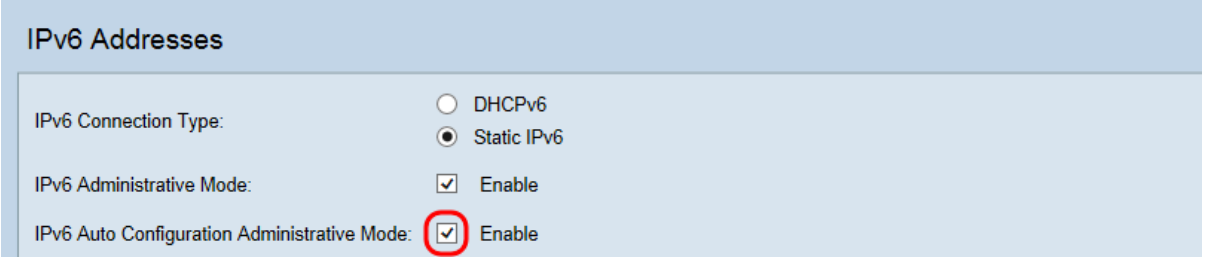
ステップ2:[IPv6 Settings] で、[IPv6 Connection Type]フィールドの[Static IPv6]をクリックします。そのためには、アクセスポイントにIPアドレスを手動で割り当てる必要があります。



ステップ3:[*IPv6 Auto Configuration Administrative Mode*]チェックボックスをオンにして、デバイスのIPv6自動アドレス設定を有効または無効にします。これにより、デバイスはDHCPサーバまたは静的に割り当てられたアドレスなしで自動的にIPv6アドレスを生成できます。



ステップ4:[IPv6 Auto Configuration Administrative Mode] チェックボックスをオンにして、デバイスのIPv6自動アドレス設定を有効または無効にします。



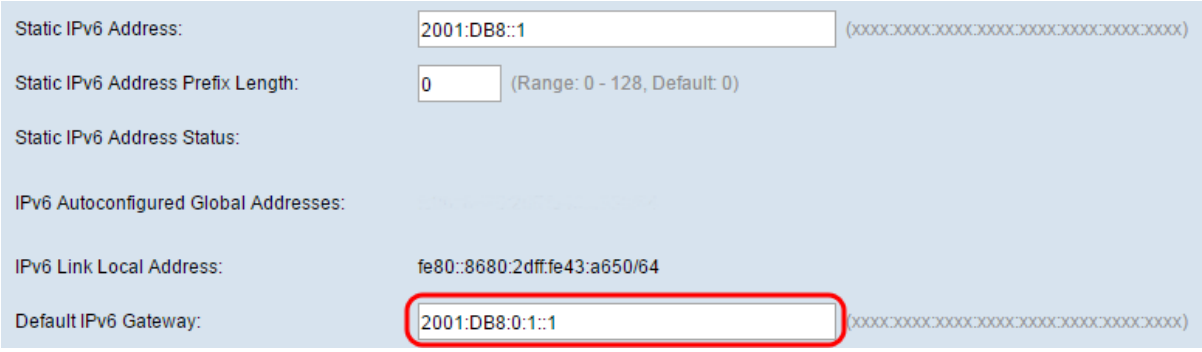
ステップ5:[Static IPv6 Address]フィールドにデバイスの目的のスタティックIPv6アドレスを入力します。

注：WAPデバイスには、自動的に設定されるアドレスに加えて、スタティックIPv6アドレスを設定できます。

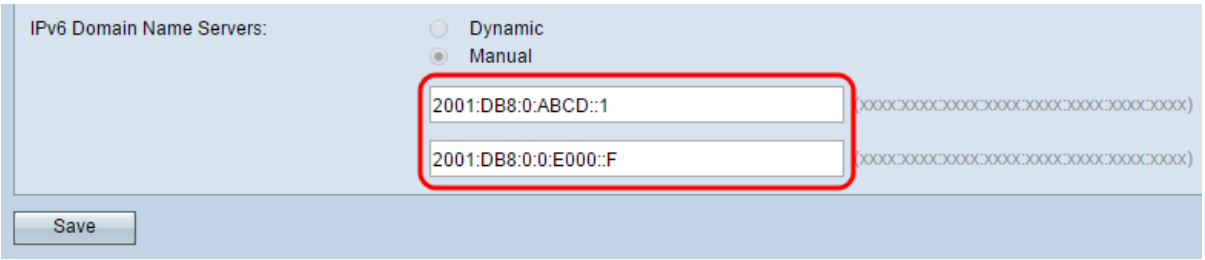
ステップ6:[Static IPv6 Address Prefix Length]フィールドに、スタティックアドレスのプレフィクス長を入力します。プレフィクス長の値の範囲は0 ~ 128で、デフォルトは0です。

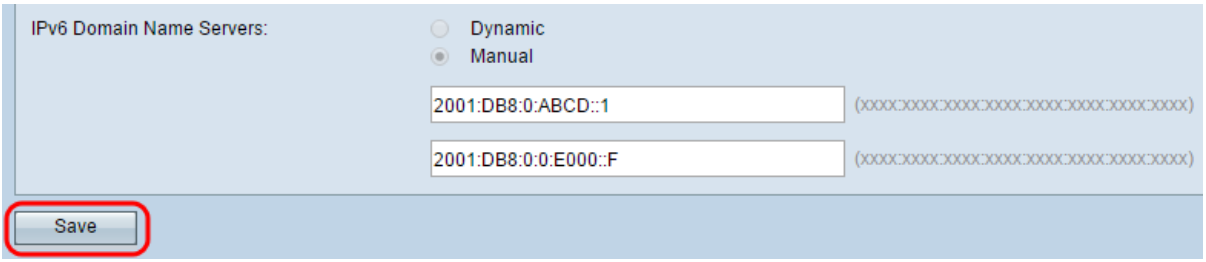
注：リンクローカルアドレスは、ローカル物理リンクで使用されるIPv6アドレスです。[IPv6 Link Local Address] フィールドは自動的に割り当てられ、設定することはできません。

ステップ7:[Default Gateway]フィールドにデフォルトゲートウェイのIPv6アドレスを入力します。デフォルトゲートウェイは、ネットワークをインターネットなどの外部ネットワークに接続するルータです。パケットの宛先IPアドレスが不明な場合は、デフォルトゲートウェイに送信されます。



ステップ8:[IPv6 Domain Name Servers]フィールドに、ドメインネームシステム(DNS)サーバのIPv6アドレスを入力します。通常、インターネットサービスプロバイダー(ISP)はこのアドレスを提供します。2番目のDNSサーバのIPアドレスはオプションです。



注：ステップ2で**スタティックIPv6**接続タイプを選択すると、IPv6ドメインネームサーバ(DNS)が自動的に手動に設定されます。

ステップ9:[**Save**]をクリックして設定を保存します。